

餅による窒息事故に注意！

餅による窒息事故は、餅を食べる機会が増える12月から1月にかけて多くなります。東京消防庁管内では、平成25年から平成29年までの5年間に、毎年100人前後が餅（団子等も含みます）をのどに詰まらせて救急搬送されており、その約9割が65歳以上の高齢者です。

窒息は放置すれば死に至る事故です。年末年始を迎えるにあたり、事故防止のポイントや応急手当の方法を確認しておきましょう。

事故事例

- ・ 自宅で食事中に餅をのどに詰まらせて息苦しそうにしていた。
(80代・重篤)
- ・ お雑煮を食べていた際、突然苦しみだし、顔が真っ青になり倒れ呼びかけに反応がなくなった。
(60代・重篤)
- ・ 祭りで餅を食べていたところ、のどに詰まらせて喋れなくなった。
(3歳・軽症)

(東京消防庁 広報テーマ2018年12月号より抜粋)

事故を防ぐポイント

- 餅は小さく切るなど、食べやすい大きさにする。
- 食べる前に会話をするなど、口の準備運動をしたり、水やスープ等を飲んでのどを湿らせる。
- 急いで飲み込まず、ゆっくりと噛んでから飲み込む。
- 口に入っている分を飲み込んでから、次の食べ物を口の中に入れる。
- 食事中は歩きまわらない、横にならない。
- 一人で食事をする場合は、特に注意する。高齢者や乳幼児と一緒に食事をする際は、適時食事の様子を見るなど注意を払う。



問合せ先 生活文化局消費生活部生活安全課
電話 03-5388-3055

その他の危害危険情報はこちら。

東京くらしWEB

<https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp/anzen/kigai.html>



物をのどに詰まらせた人への応急手当の方法



チョークサインを出しているとき、声を出せないとき、顔色が急に真っ青になったときなどは、食べ物などにより気道が塞がれていることが疑われます。

※チョークサイン…窒息を起こし、呼吸ができなくなったことを他の人に知らせる世界共通のサイン

そのようなときは大きな声で助けを呼び、119番通報とAEDの搬送を依頼し、直ちに気道異物除去を始めます。

呼びかけて反応があれば・・・

- ・まず咳をすることが可能であれば、できる限り咳をさせます。
- ・咳もできずに窒息しているときは、年齢・性別に関係なく実施可能な背部叩打法（はいぶこうだほう）を行いましょう。

背部叩打法の実施手順

食べ物を詰まらせた人（以下「傷病者」といいます。）が立っているか座っている場合は、やや後方から片手で傷病者の胸と下あごを支えて、あごを反らせます。傷病者が倒れている場合は、傷病者を手前に引き起こして横向きにし、自分の足で傷病者の胸を支えます。片手で傷病者の下あごを支えて、あごを反らせます。もう片方の手のひらの付け根で、傷病者の肩甲骨と肩甲骨の間を強く、迅速に叩きます。

異物が取れるか、反応がなくなるまで続けます。

成人・小児の例



乳児の例



呼びかけに反応がない場合又は、反応がなくなった場合は・・・

ただちに心肺蘇生を開始してください。※

（東京消防庁 広報テーマ 2018年12月号 より抜粋）

※心肺蘇生については、東京消防庁の以下のURLからご覧いただけます。

東京消防庁《広報テーマ 2018年7月号 夏に多発する事故から尊い命を守ろう 心肺蘇生等の応急手当》

<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/camp/2018/201807/camp5.html>

【参考】

東京消防庁《広報テーマ 2018年12月号 年末・年始の救急事故をなくそう 餅による窒息事故に注意》

<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/camp/2018/201812/data/camp1.pdf>

東京くらしWEB《年末年始の生活に潜むヒヤリ・ハット調査》（平成24年12月4日）

<https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp/anzen/hiyarihat/nenmatsu.html>